



2027年3月期 第2四半期決算

2026年10月29日
株式会社オリエンタルランド

I. 決算概要

II. 通期業績予想の上方修正

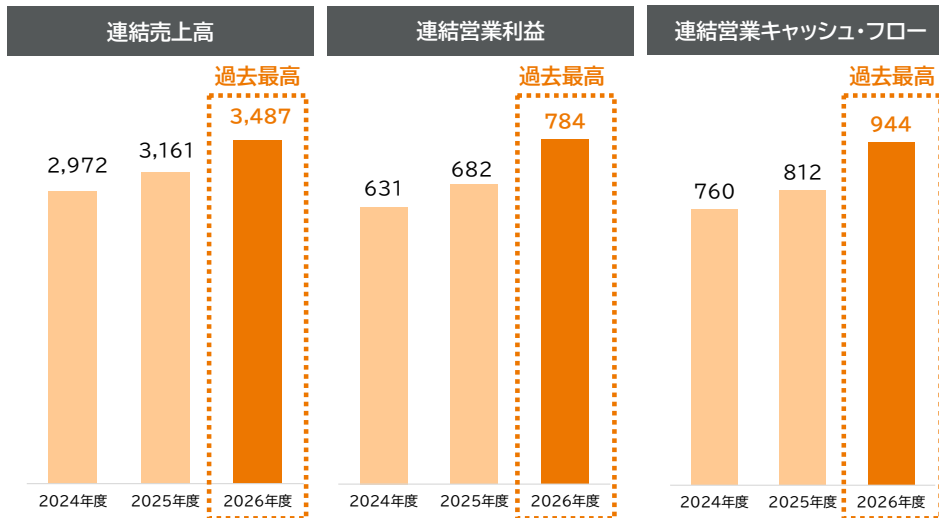
III. 今後について

IV. クルーズ事業について

I . 決算概要

東京ディズニーシー® 25周年イベントの好調などにより、
連結売上高、営業利益、営業キャッシュ・フロー*共に過去最高

(億円)



東京ディズニーシー25周年デコレーション

* 営業キャッシュ・フロー＝親会社株主に帰属する中間純利益＋減価償却費

As to Disney Properties ©Disney

上半期実績

上半期の業績の推移は、ご覧の通りです。

上半期は、東京ディズニーシー25周年イベント“スパーキング・ジュビリー”の好調などにより、
連結売上高、営業利益、営業キャッシュ・フローは、過去最高となりました。

雨天が続く、厳しい環境下でも、
高い実績を獲得できたと認識しています。

入園者数およびゲスト1人当たり売上高の増などにより、増収増益

(億円)

連結損益計算書	2026年3月期 実績	2027年3月期 実績	増減	増減率
売上高	3,161	3,487	325	10.3%
テーマパーク事業	2,517	2,813	295	11.7%
ホテル事業	561	590	29	5.2%
その他の事業	82	83	0	0.4%
営業利益	682	784	102	15.0%
テーマパーク事業	497	607	109	22.0%
ホテル事業	175	170	△ 4	△ 2.6%
その他の事業	6	6	△ 0	△ 10.3%
営業外収益	27	147*	119	431.8%
営業外費用	17	31	14	86.4%
経常利益	693	900	207	29.9%
税金等調整前中間純利益	693	900	207	29.9%
親会社株主に帰属する中間純利益	483	618	135	28.1%

* ハイアットリージェンシー瀬良垣アイランド沖縄に対する出資案件で、ホテルの売却を行ったことなどにより営業外収益は147億円となりました。

上半期実績（前年同期比較）

まずは、前年同期比較についてご説明します。

上半期実績の前年同期比較は、ご覧の通りです。
入園者数およびゲスト1人当たり売上高の増などにより、
増収増益となりました。

テーマパーク事業
売上高

入園者数およびゲスト1人当たり売上高が増加したことから増収。
ゲスト1人当たり売上高は過去最高

	2026年3月期 実績	2027年3月期 実績	増減	増減率
売上高(億円)	2,517	2,813	295	11.7%
入園者数(万人)	1,225	1,310	85	6.9%
ゲスト1人当たり売上高(円)	18,196	18,940	744	4.1%
アトラクション・ショー収入	9,447	9,422*	△ 25	△ 0.3%
商品販売収入	5,174	5,735	561	10.8%
飲食販売収入	3,574	3,782	208	5.8%

入園者数の増

- ー 東京ディズニーシー25周年イベントによる増



スパークリング・ジュビリー・ナイト

* ディズニー・プレミアアクセスの売上が占める割合は1割以上です。

ゲスト1人当たり売上高の増

- ・ アトラクション・ショー収入はほぼ同様
- ・ 商品販売収入は上回った
 - ー 東京ディズニーシー25周年関連商品販売の増
- ・ 飲食販売収入は上回った
 - ー 東京ディズニーシー25周年関連メニュー・フードスーベニア販売の増

As to Disney Properties ©Disney

6

上半期実績(前年同期比較) - 主な増減要因

セグメント別の実績と、増減要因をご説明します。
テーマパーク事業の売上高は、295億円増の2,813億円となりました。

入園者数は、
東京ディズニーシー25周年イベントによる増などにより、増加しました。

ゲスト1人当たり売上高は、上半期として過去最高となりました。
アトラクション・ショー収入は、ほぼ同様となりました。

商品販売収入は、
東京ディズニーシー25周年関連商品販売の増などにより、上回りました。

飲食販売収入は、
東京ディズニーシー25周年関連メニュー・フードスーベニア販売の増などにより、上回りました。

テーマパーク事業
営業利益

人件費や諸経費が増したものの、売上高の増などにより増益

(億円)

	2026年3月期 実績	2027年3月期 実績	増減	増減率
売上高	2,517	2,813	295	11.7%
営業利益	497	607	109	22.0%

営業利益の増

売上高の増	
商品・飲食原価率の減	11
人件費の増	△ 51
業績賞与計上による増	△ 30
正社員人件費の増など	△ 21

諸経費の増	△ 44
東京ディズニーシー25周年イベント 関連費用の増	△ 12
エネルギー費の増	△ 6
エンターテインメント関連費用の増	△ 6
その他	△ 18
減価償却費の減	6
既存資産償却進行による減など	

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

7

上半期実績（前年同期比較）－ 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、
109億円増の、607億円となりました。

商品・飲食原価率は、
飲食原価率が、
価格改定や売上構成の変化などにより減少し、
全体として減少しました。

人件費は、
業績賞与計上による増や、
人数増や賃金改定などにより、増加しました。

諸経費は、
東京ディズニーシー25周年イベント関連費用の増や、
エネルギー費の増などにより、増加しました。

ホテル事業

宿泊収入の増などにより売上高は増したものの、
人件費や諸経費の増などにより減益

	2026年3月期 実績	2027年3月期 実績	増減	増減率 (億円)
売上高	561	590	29	5.2%
ディズニーホテル	516	548	31	6.1%
客室稼働率(%、pt)	92.3	94.8*	2.5	
平均客室単価(円)	66,806	68,332	1,526	2.3%
その他ホテル	44	42	△ 2	△ 4.9%
営業利益	175	170	△ 4	△ 2.6%

売上高の増

- 客室単価の増

営業利益の減

- 売上高の増
- 人件費の増(△ 11億円)
 - 業績賞与計上差額による増
- 諸経費の増

* 客室稼働率の分母には、修繕工事対象の客室(全客室のうち1.9%)も含めております。

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

上半期実績(前年同期比較) - 主な増減要因

ホテル事業は、
客室単価の増などにより、
売上高は、29億円増の590億円となりました。

上半期のディズニーホテルにおける客室稼働率は、
2.5ポイント増の94.8%、
平均客室単価は、
1,526円増の68,332円でした。

営業利益は、
売上高の増があったものの、
人件費や諸経費の増などにより、
4億円減の170億円となりました。

その他の事業

売上高はほぼ同様、人件費の増などにより減益

(億円)

	2026年3月期 実績	2027年3月期 実績	増減	増減率
売上高	82	83	0	0.4%
営業利益	6	6	△ 0	△ 10.3%

売上高はほぼ同様

- ・ イクスピアリ事業の増
- ・ モノレール事業の増
- ・ 事業再編による減

営業利益の減

- ・ 人件費の増

上半期実績（前年同期比較） - 主な増減要因

その他の事業の売上高は、イクスピアリ事業の増などにより、83億円となりました。

営業利益は、人件費の増などにより、6億円となりました。

ゲスト1人当たり売上高や入園者数の増などにより、売上高および各利益は期初予想を上回った

	(億円)			
連結損益計算書	2027年3月期 期初予想	2027年3月期 業績	増減	増減率
売上高	3,240	3,487	246	7.6%
テーマパーク事業	2,607	2,813	205	7.9%
ホテル事業	554	590	36	6.5%
その他の事業	78	83	4	6.4%
営業利益	589	784	195	33.2%
テーマパーク事業	440	607	167	38.0%
ホテル事業	144	170	26	18.1%
その他の事業	1	6	4	402.4%
経常利益	671	900	228	34.0%
税金等調整前中間純利益	671	900	228	34.0%
親会社株主に帰属する中間純利益	455	618	163	35.9%

10

上半期実績（期初予想比較）

続いて、期初予想比較についてご説明します。

期初予想比較は、ご覧のとおりです。

ゲスト1人当たり売上高や入園者数の増などにより、
売上高および各利益は、期初予想を上回りました。

テーマパーク事業
売上高

ゲスト1人当たり売上高および入園者数は、期初予想を上回った

(億円)

	2027年3月期 期初予想	2027年3月期 実績	増減	増減率
売上高	2,607	2,813	205	7.9%

入園者数は上回った

ー 東京ディズニーシー25周年イベントによる増

【参考】雨天日数*

		1Q	2Q	上半期
2027年3月期	平日	18日	20日	38日
	土日祝日	5日	14日	19日
2026年3月期	平日	12日	9日	21日
	土日祝日	9日	3日	12日

* 外部の気象情報データをもとに日数を算出

ゲスト1人当たり売上高は上回った

- ・ アトラクション・ショー収入はほぼ同様
- ・ 商品販売収入は上回った
 - ー 東京ディズニーシー25周年関連商品販売の増
- ・ 飲食販売収入は上回った
 - ー 東京ディズニーシー25周年関連メニュー・フードスーベニア販売の増

上半期実績(期初予想比較) - 主な増減要因

セグメント別の実績と、増減要因をご説明します。
テーマパーク事業の売上高は、205億円上回りました。

入園者数は、第2四半期においては、雨天の影響を受けたものの、
東京ディズニーシー25周年イベントによる増などにより、上回りました。

ゲスト1人当たり売上高は、
東京ディズニーシー25周年関連商品、
メニュー・フードスーベニア販売の増などによる商品・飲食販売収入の増により、
全体として上回りました。

テーマパーク事業
営業利益

諸経費や商品・飲食原価率の減などにより、営業利益は期初予想を上回った

(億円)

	2027年3月期 期初予想	2027年3月期 実績	増減	増減率
売上高	2,607	2,813	205	7.9%
営業利益	440	607	167	38.0%

営業利益の増

売上高の増	約 40
商品・飲食原価率の減	約 20
人件費の増	約△ 15
業績賞与計上による増	約△ 30
正社員人件費の減	約 10
その他	約 5
諸経費の減	約 40
研究開発費の減	約 10
エンターテインメント関連費用の減	約 5
システム関連費用の減	約 5
販売促進費の減	約 5
その他	約 15
減価償却費の減	約 5

(億円)

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

12

上半期実績（期初予想比較） - 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、
諸経費や商品・飲食原価率の減などにより、
167億円上回りました。

商品・飲食原価率は、
飲食原価率が、売上構成の変化などにより減少し、
全体として減少しました。

人件費は、
業績賞与計上による増などにより、増加しました。

諸経費は、
研究開発費の減や、エンターテインメント関連費用の減などにより、
減少しました。
現時点では減額終了は約10億円、増額は約 5 億となっており、
第3四半期以降への時期ずれを見込んでおりますが、
今後もコストコントロールを行うことで、コストの増加幅を抑えていきます。

ホテル事業

売上高および営業利益は期初予想を上回った

(億円)

	2027年3月期 期初予想	2027年3月期 実績	増減	増減率
売上高	554	590	36	6.5%
営業利益	144	170	26	18.1%

売上高の増

- ・ 客室単価の増

営業利益の増

- ・ 売上高の増
- ・ 人件費の増(約△ 5億円)
- － 業績賞与計上による増

その他の事業

売上高および営業利益は期初予想を上回った

(億円)

	2027年3月期 期初予想	2027年3月期 実績	増減	増減率
売上高	78	83	4	6.4%
営業利益	1	6	4	402.4%

売上高の増

- ・ イクスピアリ事業の増

- ・ モノレール事業の増

営業利益の増

- ・ 売上高の増

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

13

上半期実績(期初予想比較) - 主な増減要因

ホテル事業とその他の事業は、ご覧のとおりです。
いずれも、期初予想を上回りました。

Ⅱ. 通期業績予想の上方修正

上半期実績の好調に加え、下半期も好調の継続を見込み、通期業績予想を上方修正

上半期実績(期初予想比較)

連結:売上高、営業利益ともに**上回った**

テーマパーク事業		入園者数の増 ・ 東京ディズニーシー25周年イベントによる増など
		ゲスト1人当たり売上高の増 ・ 東京ディズニーシー25周年イベントによる増など
		コストの減 ・ 下半期への時期ずれによる減など
ホテル事業		ディズニーホテル平均客室単価の増 ・ 需要に応じた客室販売価格の設定による増など
		ディズニーホテル平均客室稼働率の増 ・ 東京ディズニーシー25周年イベントによる増など



下半期見込み(期初予想比較)

連結:売上高、営業利益ともに**上回る見込み**

テーマパーク事業	ゲスト1人当たり売上高は 上回る ・ アトラクション・ショー収入は上回る ・ 商品販売収入は上回る ・ 飲食販売収入は若干上回る ※入園者数は据え置き
	コストの増 ・ 人件費の増 ー 業績賞与計上による増など ・ 諸経費の増 ー 上半期からの時期ずれによる増など
	ディズニーホテル平均客室単価の増 ・ 需要に応じた客室販売価格の設定による増など
ホテル事業	ディズニーホテル平均客室単価の増 ・ 需要に応じた客室販売価格の設定による増など



通期業績予想を上方修正

通期修正予想の前提

上半期実績の好調に加え、
下半期も、売上高および営業利益は期初予想を上回ることを見込み、
通期業績予想を、上方修正することとしました。

下半期は、
テーマパーク事業における各コストの増が見込まれるものの、
ゲスト1人当たり売上高の増や、
ホテル事業における、ディズニーホテル平均客室単価の増などにより、
売上高、営業利益ともに期初予想を上回る見込みです。

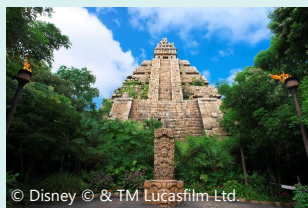
新規エンターテインメントの開始に加え、今後は需要の高いアトラクションの再開や、
スペシャルイベントの実施も予定

The D-Groovationz4 Live:
Happy! Funky! Groovy! Tour



Tokyo Disneyland 開始日:2026年9月30日

インディ・ジョーンズ・アドベンチャー:
クリスタルスカルの魔宮



DisneySEA 再開日:2026年11月30日

「ディズニー・パルパルーザ」第7弾
「ミニーのファンダーランド」



Tokyo Disneyland 実施期間: 2027年1月13日~3月31日

As to Disney Properties ©Disney

16

下半期に向けた施策

下半期は、高い需要が見込まれる第3四半期はもちろんのこと、
第4四半期まで様々な施策を導入していきます。

新規エンターテインメントの開始に加え、需要の高いアトラクションの再開や、
スペシャルイベントの実施など、パークの魅力を更に向上させることで、
引き続きゲストの体験価値向上に向けて邁進します。

ゲスト1人当たり売上高および入園者数の増により、連結売上高と各利益は過去最高となる見込み
(億円)

連結損益計算書	2027年3月期 修正予想	2026年3月期 実績	対前期 増減	対前期 増減率	2027年3月期 期初予想	対期初予想 増減	対期初予想 増減率
売上高	7,633	7,045	587	8.3%	7,243	390	5.4%
テーマパーク事業	6,229	5,683	546	9.6%	5,922	307	5.2%
ホテル事業	1,232	1,190	42	3.6%	1,157	75	6.5%
その他の事業	170	171	△ 0	△ 0.4%	163	7	4.8%
営業利益	1,854	1,684	170	10.1%	1,607	246	15.4%
テーマパーク事業	1,487	1,304	182	14.0%	1,287	200	15.6%
ホテル事業	352	368	△ 16	△ 4.4%	307	45	14.7%
その他の事業	12	4	7	154.6%	8	4	50.3%
経常利益	1,957	1,696	261	15.4%	1,680	277	16.5%
税金等調整前当期純利益	1,957	1,701	256	15.1%	1,680	277	16.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,335	1,218	116	9.6%	1,137	197	17.3%
	2027年3月期 修正予想	2026年3月期 実績	対前期 増減	対前期 増減率	2027年3月期 期初予想	対期初予想 増減	対期初予想 増減率
入園者数(万人)	2,850	2,753	97	3.5%	2,800	50	1.8%
ゲスト1人当たり売上高(円)	19,429	18,403	1,026	5.6%	18,712	717	3.8%
アトラクション・ショー収入	10,189	9,608	581	6.0%	10,001	188	1.9%
商品販売収入	5,561	5,227	334	6.4%	5,170	391	7.6%
飲食販売収入	3,679	3,569	111	3.1%	3,541	139	3.9%

17

通期修正予想(前期・期初予想比較)

上方修正した通期業績予想は、ご覧の通りです。

ゲスト1人当たり売上高および入園者数の増などにより、
連結売上高と各利益は、期初予想を上回り、過去最高となる見込みです。

**テーマパーク事業
売上高**

東京ディズニーシー25周年イベントの好調などにより、
入園者数は若干上回り、ゲスト1人当たり売上高は上回る見込み

	2027年3月期 期初予想	2027年3月期 修正予想	増減	増減率
売上高(億円)	5,922	6,229	307	5.2%
入園者数(万人)	2,800	2,850	50	1.8%
ゲスト1人当たり売上高(円)	18,712	19,429	717	3.8%
アトラクション・ショー収入	10,001	10,189	188	1.9%
商品販売収入	5,170	5,561	391	7.6%
飲食販売収入	3,541	3,679	139	3.9%

入園者数は若干上回る

- ー 東京ディズニーシー25周年イベントによる増

ゲスト1人当たり売上高は上回る

- ・ アトラクション・ショー収入は若干上回る
 - ー ディズニー・プレミアアクセスの増
- ・ 商品販売収入は上回る
 - ー 東京ディズニーシー25周年関連商品販売の増
- ・ 飲食販売収入は上回る
 - ー 東京ディズニーシー25周年関連メニュー・フードスーベニア販売の増

18

通期修正予想(期初予想比較) - 主な増減要因

セグメント別の見込みと増減要因をご説明します。

テーマパーク事業の売上高は、307億円上回り、6,229億円となる見込みです。

入園者数は、
東京ディズニーシー25周年イベントによる増により若干上回り、
2,850万人を見込んでいます。

ゲスト1人当たり売上高は、上回る見込みです。
アトラクション・ショー収入は、
ディズニー・プレミアアクセスの増などにより、
若干上回る見込みです。

商品・飲食販売収入は、
東京ディズニーシー25周年関連商品、メニュー・フードスーベニア販売の増などにより、
上回る見込みです。

テーマパーク事業
営業利益

人件費が増するものの、売上高の増などにより、営業利益は上回る見込み

(億円)

	2027年3月期 期初予想	2027年3月期 修正予想	増減	増減率
売上高	5,922	6,229	307	5.2%
営業利益	1,287	1,487	200	15.6%

(億円)

営業利益の増

売上高の増		諸経費の減	約 5
商品・飲食原価率の減	約 15	システム関連費用の減など	約 5
人件費の増	約△ 40	減価償却費の減	8
業績賞与計上による増	約△ 65	新規資産取得の時期ずれによる減など	
正社員人件費の減	約 15		
その他	約 10		

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

19

通期修正予想（期初予想比較） - 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、
人件費が増するものの、
売上高の増などにより、200億円上回り、1,487億円となる見込みです。

人件費は、
業績賞与計上による増などにより、増加する見込みです。

商品・飲食原価率および諸経費は、
減少する見込みです。

ホテル事業

客室修繕工事を行うものの、売上高および営業利益は上回る見込み

(億円)

	2027年3月期 期初予想	2027年3月期 修正予想	増減	増減率
売上高	1,157	1,232	75	6.5%
ディズニーホテル	1,075	1,153	78	7.3%
その他ホテル	82	79	△ 3	△ 3.7%
営業利益	307	352	45	14.7%

売上高の増

- ・ 客室単価の増

営業利益の増

- ・ 売上高の増
- ・ 人件費の増(約△ 15億円)
 - ー 業績賞与計上による増

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

20

通期修正予想（期初予想比較） - 主な増減要因

ホテル事業は、
客室単価の増などにより、
売上高は75億円上回り、1,232億円、
営業利益は45億円上回り、352億円となる見込みです。

その他の事業

その他の事業は、売上高および営業利益は上回る見込み

(億円)

	2027年3月期 期初予想	2027年3月期 修正予想	増減	増減率
売上高	163	170	7	4.8%
営業利益	8	12	4	50.3%

売上高の増

- ・ イクスピアリ事業の増
- ・ モノレール事業の増

営業利益の増

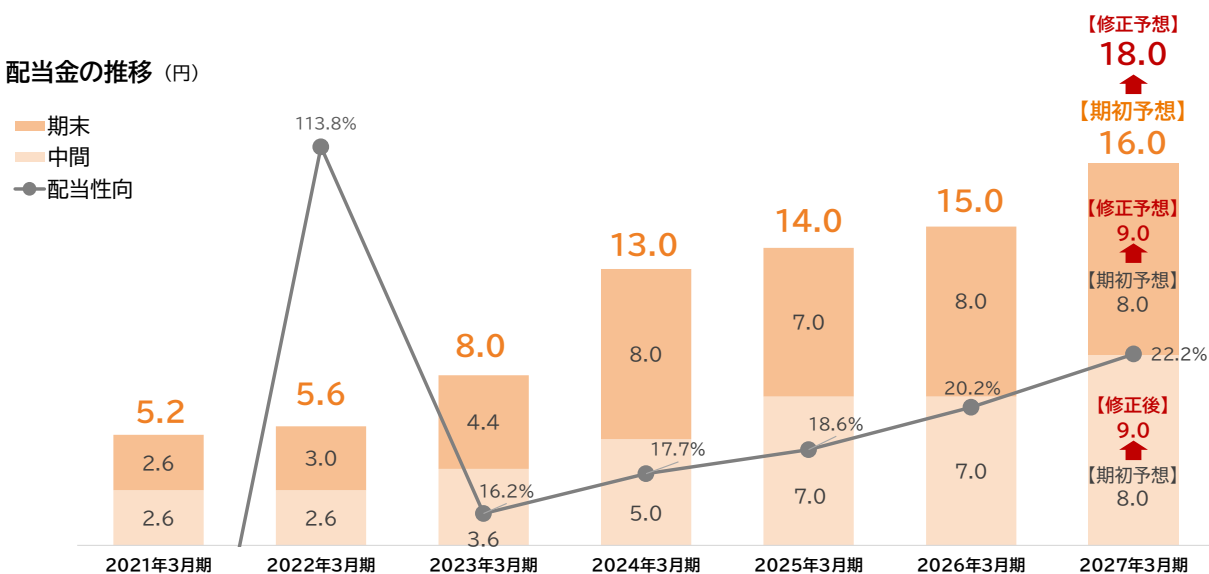
- ・ 売上高の増

通期修正予想（期初予想比較） - 主な増減要因

その他の事業は、
売上高は7億円上回り、170億円、
営業利益は4億円上回り、12億円となる見込みです。

実績および修正予想を踏まえ、2027年3月期の中間および期末の配当金を
期初予想よりも各1円増配し、年間配当金は1株当たり18円を予想

配当金の推移（円）



※ 2023年4月1日を効力発生日として、1株につき5株の株式分割を実施しました。
2023年3月期以前の配当は、株式分割からさかのぼって便宜的に計算したものです。

22

株主還元について

配当についてご説明します。

2027年3月期第2四半期決算の実績と通期業績予想の見通しを踏まえ、
中間および期末の配当金を期初予想から各1円増配し、
年間配当金を18円とすることとしました。

当社グループは、株主の皆様への利益還元を経営の重要政策の一つとして認識していますので、
外部環境も勘案しつつ、今後も安定的な配当を目指します。

Ⅲ. 今後について

Ⅲ. 今後について

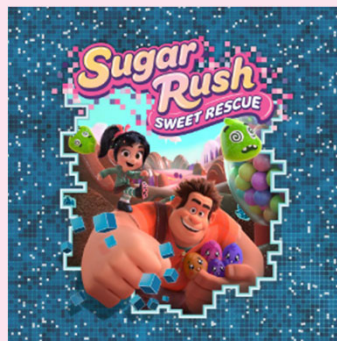
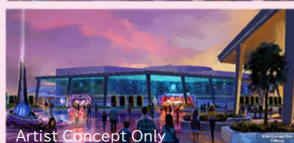
続いて、今後について、ご説明します。

東京ディズニーランド®では「シュガー・ラッシュ:スウィートレスキュー」が2027年4月15日、
東京ディズニーシーにおいても「ブリング・ザ・リズム！」が2027年秋に開業予定

「シュガー・ラッシュ:スウィートレスキュー」



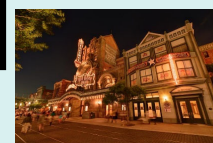
- ・ 開業予定:2027年4月15日
- ・ 投資額:約295億円



「ブリング・ザ・リズム！」



- ・ 開業予定:2027年秋
- ・ 投資額:約100億円



両パークを通じて、更なるハピネスの創出を目指す

As to Disney Properties ©Disney

24

テーマパーク事業

テーマパークにおける施策について、ご説明します。
2027年度は両パークにおいて、
新規アトラクションや新規ショーの開業を、予定しています。

東京ディズニーランドでは、
屋内型の新規アトラクション、
「シュガー・ラッシュ:スウィートレスキュー」が、2027年4月15日に開業予定です。
なお、ディズニー映画『シュガー・ラッシュ』をテーマとしたアトラクションの導入は、世界初となります。

東京ディズニーシーでも、
ブロードウェイ・ミュージックシアターで、
新規ショーである「ブリング・ザ・リズム！」が、2027年秋に開業予定です。
シンガーによる生歌唱や、ミュージシャンによる生演奏などをお楽しみいただけます。

2つのパークへの成長投資を力強く推進することで、
より多くのゲストに感動と驚きを届け、
ハピネスの創出という、テーマパーク事業の本質的な価値を、更に高めていきます。

2026年10月30日に2026年度版の統合報告書およびサステナビリティレポートを 当社ホームページにて公開予定

ポイント

- 「2035長期経営戦略」の始動から1年間の取り組みと成果を中心に掲載
- 2026年度は株式市場上場30周年という節目の年であり、創業以来受け継いできた価値観や、「2035年に目指す姿」の実現に向けた挑戦と変革への考え方、取り組みについてご紹介

詳細URL

統合報告書2026:<https://www.olc.co.jp/ja/ir/reports/annual.html>

サステナビリティレポート:<https://www.olc.co.jp/ja/sustainability/report.html>



オリエンタルランドグループ 統合報告書2026



オリエンタルランドグループ サステナビリティレポート2026

統合報告書およびサステナビリティレポート

統合報告書およびサステナビリティレポートについて、ご案内します。

明日10月30日に、2026年度版の統合報告書およびサステナビリティレポートを、当社ホームページにて公開予定です。

「2035長期経営戦略」の始動から1年間にわたる取り組みと、その成果を中心に掲載しています。

また、2026年度は、弊社にとって株式市場上場30周年という節目の年であり、創業以来受け継いできた価値観や、「2035年に目指す姿」の実現に向けた、挑戦と変革への考え方、取り組みについてご紹介しています。

是非、ご一読ください。

IV. クルーズ事業について

2028年度後半(2029年春)の就航に向け、順調に進捗。先日、東京国際クルーズターミナルにて、ディズニー・クルーズライン・ジャパンの記念すべき1隻目の船名記者発表会を実施

 ORIENTAL LAND CRUISE



ディズニー・クルーズライン・ジャパン*

* 写真はディズニー・クルーズラインの「ディズニー・ウィッシュ」



船名記者発表会当日の様子



©東京都港湾局

東京国際クルーズターミナル

As to Disney Properties ©Disney

27

クルーズ事業

これまでシニア層がゆったりと楽しむイメージだった日本のクルーズの旅を、お子様からお年寄りまで、誰もが主役になれる、「ファミリーエンターテイメントクルーズ」へ。

そんな“新しい文化を根付かせる”というオリエンタルランドグループの挑戦は、2028年度後半の就航に向け、順調に進んでいます。

先日、東京国際クルーズターミナルにて、2028年度後半に就航予定の、ディズニー・クルーズライン・ジャパンの船名を発表する、記者発表会を行いました。

船名は「ディズニー・イマジネーション」。あらゆる世代のゲストに、ディズニーのイマジネーションを感じながら、航海を楽しんでいただきたいという想いを込めている



As to Disney Properties ©Disney

28

クルーズ事業

「ディズニー・イマジネーション」は、ディズニーのストーリーテリングの中心に、常に存在している力に満ちた、夢と願いの船です。

この船名には、あらゆる世代のゲストに、ディズニーのイマジネーションを感じながら、航海を楽しんでいただきたいという、想いを込めています。

すべてのディズニークルーズ船に共通する特徴的な要素として、船尾には船名だけでなく、その船の精神性を表現するスターンキャラクターが施されます。

私たちのクルーズ船では、創造性、独創性、そして夢を追い求める強い信念に基づいて行動する、ディズニー映画『リトル・マーメイド』の「アリエル」を迎えました。

「ディズニー・イマジネーション」という船名は、この「アリエル」が持つ冒険心、果てしない好奇心、そして可能性を信じる心と共鳴するものです。

「ディズニー・イマジネーション」によってファミリーエンターテインメントクルーズという、国内で唯一無二の体験を提供することで、これまでにない感動と笑顔があふれる、新しいハピネスを創出していく

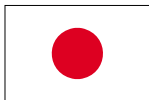
ポテンシャルのある
日本クルーズ市場の特性

国内の観光・レジャー市場
(2025年)

- 延べ旅行者数: 3.7億人
- 国内クルーズ年間利用数: 25万人*

人口当たりクルーズ利用率

- 日本は0.2%、米国は5.9%*
- 日本のクルーズ市場は十分な成長余地があると捉えている



0.2%



5.9%

* 利用者数は、クルーズ利用者数: 「CLIA Asia Passenger Report 2025」・「CLIA North America Passenger Report 2025」、利用率は、左記データに加えて人口: 「世界人口白書2025 (UNFPA: 国連人口基金)」から算出

As to Disney Properties ©Disney



「ディズニー・イマジネーション」
が提供する特別な価値

- ディズニーの物語性や深いホスピタリティが織りなす、至高の体験
- 2~4泊の1人10~30万円台を中心とした、ショートクルーズプラン
- アクセスの良い東京国際クルーズターミナルより、日本籍船として発着



船尾に飾られるスターンキャラクター

クルーズ事業

「ディズニー・イマジネーション」でゲストの皆様にご体験いただくのは、この船そのものが旅の目的となる、国内における新しいクルーズの楽しみ方です。

2025年における国内クルーズの年間利用数は、25万人程度となっています。クルーズ先進国である米国と、人口あたりのクルーズ利用率で比較すると、米国は5.9%である一方、日本は0.2%となっています。これらのことから、日本のクルーズ市場は、十分なポテンシャルがあると捉えています。

日本船籍とすることで、日本人の観光・レジャースタイルに合ったショートクルーズの実現が可能になり、幅広いゲスト層にお楽しみいただけるようになります。

就航は2028年度後半を予定しており、就航日の約半年前から乗船予約をお受けできるよう、調整や準備を進めています。

乗船される全てのゲストが、主役となってお楽しみいただける、国内で唯一無二の新しい体験、ファミリーエンターテインメントクルーズ。

当社グループの役職員が、想いを一つに束ね、日本初のディズニークルーズという、歴史的な挑戦に総力で臨むことで、これまでにない感動と笑顔があふれる、新しいハピネスを創出していきます。私たちの挑戦に、どうぞご期待ください。

Appendix

2027年3月期 テーマパークイベント・新規アトラクションカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京ディズニーランド®	★ 2025/12/27~2026/6/28 イツ・ア・スモールワールド with グルーツ						◆ 9/30~ NEW The D-Groovationz4 Live: Happy! Funky! Groovy! Tour					
	★ 4/23~6/30 「スター・ツアーズ: ザ・アドベンチャーズ・コンティニュー」 特別バージョン			★ 7/2~9/14 NEW 「ファンタイム・ウィズ・トイ・ストーリー5」		★ 9/16~10/31 「ディズニー・ハロウィーン」		★ 11/11~12/25 「ディズニー・クリスマス」				
	★ 4/9~6/30 「ディズニー・バルバルーザ」第6弾 「ヴァネロベのスウィーツ・ポップ・ワールド」			★ 7/2~9/14 「サマー・クールオフ at Tokyo Disney Resort」						★ 1/1~1/11 お正月のスペシャルイベント		
				★ 7/2~9/14 NEW 「Reach for the Stars: Everlasting Dreams」						★ 1/13~3/31 「ディズニー・バルバルーザ」第7弾 「ミニーのファンダーランド」		
東京ディズニーシー	★ 2026/4/15~2027/3/31 NEW 「東京ディズニーシー25周年 “スパークリング・ジュビリー”」											
	★ 4/15~6/30 「東京ディズニーシー・フード&ワイン・フェスティバル」											
				★ 7/2~9/14 NEW 「ファンタイム・ウィズ・トイ・ストーリー5」		★ 9/16~10/31 「ディズニー・ハロウィーン」		★ 11/11~12/25 「ディズニー・クリスマス」				
				★ 7/2~9/14 「サマー・クールオフ at Tokyo Disney Resort」		★ 9/16~11/2 「ラロス・デ・ラ・ファミリア」				★ 1/1~1/11 お正月のスペシャルイベント		

※イベントの名称、開催期間は変更になる場合があります。※2026年10月29日時点で公表しているものを記載しています。

★ スペシャルイベント・プログラム ◆ 新規アトラクション・ショーなど

パーク内施設等の体験時間や入場時刻を指定して予約できる有料のサービス。少ない待ち時間で施設の利用が可能

東京ディズニーランド アトラクション	導入日	価格	東京ディズニーランド エンターテインメント	導入日	価格
美女と野獣“魔法のものがたり”	2022年5月19日	¥2,500	ディズニー・ハーモニー・イン・カラー	2023年4月15日	¥2,500
スプラッシュ・マウンテン	2022年12月1日	¥1,500	東京ディズニーランド・エレクトリカルパレード・ドリームライツ	2023年4月15日	¥2,500
ベイマックスのハッピーライド	2022年12月1日	¥1,500	Reach for the Stars* ²	終了 2024年9月20日* ³	¥2,500
ビッグサンダー・マウンテン	2026年9月1日	¥1,500	ミッキーのマジカルミュージックワールド	2024年11月13日	¥2,500
プーさんのハニーハント	2026年9月1日	¥1,500	ディズニー・パルパルーザ イッツ・ア・スウィーツフルタイム！	終了 2026年4月9日* ⁴	¥2,500
モンスターズ・インク“ライド&ゴーシーク！”	2026年9月1日	¥1,000	ザ・ヴィランズ・ハロウィーン “Into the Frenzy”	2026年9月16日* ⁵	¥3,500
ホーンテッドマンション“ホリデーナイトメアー”	2026年9月15日* ¹	¥1,000	The D-Groovationz4 Live: Happy! Funky! Groovy! Tour	2026年9月30日	¥2,500
シュガー・ラッシュ:スウィートレスキュー	2027年4月15日 (予定)	¥3,000	トイズ・ワンダラス・クリスマス！	2026年11月11日 (予定)* ⁶	¥3,500

※2026年10月29日時点で公表しているものを記載しています。

※ディズニー・プレミアアクセスを来園前に予約できるサービスを2027年度導入予定。

*1 2026年9月15日～2027年1月7日の間、対象です。

*2 2026年7月2日～9月14日の間、「Reach for the Stars: Everlasting Dreams」として実施していました。

*3 2024年9月20日～2026年9月14日の間、対象でした。

*4 2026年4月9日～6月30日の間、対象でした。

*5 2026年9月16日～10月31日の間、対象です。

*6 2026年11月11日～12月25日の間、対象です。

パーク内施設等の体験時間や入場時刻を指定して予約できる有料のサービス。少ない待ち時間で施設の利用が可能

東京ディズニーシー アトラクション	導入日	価格	東京ディズニーシー エンターテイメント	導入日	価格
ソアリン：ファンタスティック・フライト	2022年5月19日	¥2,500	ビリーヴ！～シー・オブ・ドリームス～	2022年11月11日	¥2,500
トイ・ストーリー・マニア！	2022年6月10日	¥2,000	ドリームス・テイク・フライト	2025年7月16日	¥2,500
タワー・オブ・テラー	2022年12月9日	¥1,500	ダンス・ザ・グローブ！	2026年1月14日*	¥2,500
センター・オブ・ジ・アース	2022年12月9日	¥2,000			
アナとエルサのフローズジャーニー	2024年6月6日	¥2,500			
ラプンツェルのランタンフェスティバル	2024年6月6日	¥2,000			
ピーターパンのネバーランドアドベンチャー	2024年6月6日	¥2,000			
レイジングスピリッツ	2026年9月1日	¥1,500			
インディ・ジョーンズ・アドベンチャー： クリスタルスカルの魔宮	2026年11月30日 (予定)	¥1,500			

※2026年10月29日時点で公表しているものを記載しています。
 ※ディズニー・プレミアアクセスを来園前に予約できるサービスを2027年度導入予定。
 * 2026年1月14日～2027年3月31日の間、対象です。

**テーマパーク事業
売上高**
ゲスト1人当たり売上高や入園者数の増により、売上高は上回る見込み

	2026年3月期 実績	2027年3月期 修正予想	増減	増減率
売上高(億円)	5,683	6,229	546	9.6%
入園者数(万人)	2,753	2,850	97	3.5%
ゲスト1人当たり売上高(円)	18,403	19,429	1,026	5.6%
アトラクション・ショー収入	9,608	10,189	581	6.0%
商品販売収入	5,227	5,561	334	6.4%
飲食販売収入	3,569	3,679	111	3.1%

入園者数は上回る

- ー 東京ディズニーシー25周年イベントによる増

ゲスト1人当たり売上高は上回る

- ・ アトラクション・ショー収入は上回る
 - ー ディズニー・プレミアアクセスの増
 - ー 変動価格制による高価格帯チケット構成比の増
- ・ 商品販売収入は上回る
 - ー 東京ディズニーシー25周年関連商品販売の増
 - ー ダッフィー&フレンズ20周年関連商品の販売終了による減
- ・ 飲食販売収入は上回る
 - ー 東京ディズニーシー25周年関連メニュー・フードスーベニア販売の増

テーマパーク事業
営業利益

諸経費や人件費が増するものの、売上高の増により、営業利益は上回る見込み

	2026年3月期 実績	2027年3月期 修正予想	増減	増減率	(億円)
売上高	5,683	6,229	546	9.6%	
営業利益	1,304	1,487	182	14.0%	

営業利益の増

売上高の増		諸経費の増	約△ 160 (億円)
人件費の増	約△ 65	メンテナンス費の増	約△ 45
業績賞与計上差額による増	約△ 5	東京ディズニーシー25周年イベント 関連費用の増	約△ 25
正社員人件費の増	約△ 40	エネルギー費の増	約△ 15
準社員人件費の増	約△ 10	研究開発費の増	約△ 10
その他	約△ 10	エンターテインメント関連費用の増	約△ 10
※商品・飲食原価率はほぼ同様		その他	約△ 55
		減価償却費の減	10
		既存資産償却進行による減など	

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

ホテル事業

売上高は上回るものの、諸経費や人件費の増により、営業利益は下回る見込み

(億円)

	2026年3月期 実績	2027年3月期 修正予想	増減	増減率
売上高	1,190	1,232	42	3.6%
ディズニーホテル	1,096	1,153	57	5.2%
その他ホテル	94	79	△ 15	△ 16.1%
営業利益	368	352	△ 16	△ 4.4%

売上高の増

- ・ 客室単価の増
- ・ その他ホテルの減

営業利益の減

- ・ 売上高の増
- ・ 人件費の増(約△ 5億円)
 - ー 業績賞与計上差額による増
- ・ 諸経費の増
 - ー 客室修繕工事による修繕費の増

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

その他の事業

売上高はほぼ同様、諸経費の減などにより、営業利益は上回る見込み

(億円)

	2026年3月期 実績	2027年3月期 修正予想	増減	増減率
売上高	171	170	△ 0	△ 0.4%
営業利益	4	12	7	154.6%

売上高はほぼ同様

- ・ イクスピアリ事業の増
- ・ モノレール事業の増
- ・ 事業再編による減

営業利益の増

- ・ 諸経費の減

ゲスト1人当たり売上高の増などにより、
売上高および営業利益は前期比較、期初予想比較ともに上回る見込み

(億円)

連結損益計算書	2027年3月期 下半期修正予想	2026年3月期 下半期実績	対前期 増減	対前期 増減率	2027年3月期 下半期期初予想	対期初予想 増減	対期初予想 増減率
売上高	4,145	3,883	262	6.8%	4,002	143	3.6%
テーマパーク事業	3,416	3,165	250	7.9%	3,314	101	3.1%
ホテル事業	642	629	12	2.1%	603	39	6.5%
その他の事業	87	88	△ 0	△ 1.1%	84	2	3.3%
営業利益	1,069	1,001	67	6.8%	1,018	51	5.0%
テーマパーク事業	880	807	72	9.0%	847	32	3.9%
ホテル事業	181	193	△ 11	△ 6.0%	162	18	11.6%
その他の事業	6	△ 2	8	385.6%	6	△ 0	△ 12.7%
経常利益	1,057	1,003	54	5.4%	1,008	48	4.8%
税金等調整前当期純利益	1,057	1,008	48	4.8%	1,008	48	4.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	716	735	△ 19	△ 2.6%	682	33	4.9%

テーマパーク事業
売上高

入園者数はほぼ同様、ゲスト1人当たり売上高は上回る見込み

(億円)

	2027年3月期 下半期期初予想	2027年3月期 下半期修正予想	増減	増減率
売上高	3,314	3,416	101	3.1%

入園者数はほぼ同様

ゲスト1人当たり売上高は上回る

- アトラクション・ショー収入は上回る
ー ディズニー・プレミアアクセスの増
- 商品販売収入は上回る
ー 東京ディズニーシー25周年関連商品販売の増
- 飲食販売収入は若干上回る
ー 東京ディズニーシー25周年関連メニュー・フードスーベニア販売の増

テーマパーク事業
営業利益

人件費や諸経費が増するものの、売上高の増により、上回る見込み

	2027年3月期 下半期期初予想	2027年3月期 下半期修正予想	増減	増減率
売上高	3,314	3,416	101	3.1%
営業利益	847	880	32	3.9%

(億円)

営業利益の増

売上高の増	諸経費の増
商品・飲食原価率の増 約△ 5	研究開発費の増 約△ 5
人件費の増 約△ 25	エネルギー費の増 約△ 5
業績賞与計上による増 約△ 35	販売促進費の増 約△ 5
正社員人件費の減 約 5	エンターテインメント関連費用の増 約△ 5
その他 約 5	その他 約△ 15
	減価償却費の減 約 5
	新規資産取得の時期ずれによる減など

(億円)

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

ホテル事業

売上高、営業利益ともに上回る見込み

(億円)

	2027年3月期 下半期期初予想	2027年3月期 下半期修正予想	増減	増減率
売上高	603	642	39	6.5%
営業利益	162	181	18	11.6%

売上高の増

- ・ 客室単価の増

営業利益の増

- ・ 売上高の増
- ・ 人件費の増(約△ 10億円)
－ 業績賞与計上による増

その他の事業

売上高は上回る、営業利益は下回る見込み

(億円)

	2027年3月期 下半期期初予想	2027年3月期 下半期修正予想	増減	増減率
売上高	84	87	2	3.3%
営業利益	6	6	△ 0	△ 12.7%

売上高の増

- ・ イクスピアリ事業の増

営業利益の減

- ・ 諸経費の増

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

東京ディズニーシー25周年イベントの施策一例

エンターテインメントプログラム	スペシャルグッズ	スペシャルメニュー	デコレーション/環境演出
			
<p>スパークリング・ジュビリー・セレブレーション</p>	<p>ジュビリーブルーメモリーズ</p>	<p>スペシャルメニュー</p>	<p>ディズニーシー・アクアスフィア前のデコレーション</p>
			
<p>ダンス・ザ・グローブ！</p>	<p>ジュビリーバッジ</p>	<p>フードスーベニア</p>	<p>スパークリング・ジュビリー・ナイト</p>

As to Disney Properties ©Disney

夏期における施策一例

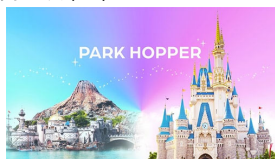
夏期限定チケット



アフター3サマーパスポート、
アフター5サマーパスポート



カレッジパスポート*



1デーパークホッパーパスポート

* 2026年9月1日～9月30日の間、販売していました。

夏期限定コンテンツの拡充



Reach for the Stars: Everlasting
Dreams (東京ディズニーランド)



“びしょ濡れ”ハーバースプラッシュ
(東京ディズニーシー)



夏のひんやりメニュー



ガジェットのゴーコースター“びしょ濡れ”
バージョン(東京ディズニーランド)

快適な過ごし方の周知



夏の東京ディズニーリゾートを
快適に満喫しよう！

暑さ対策ガイド

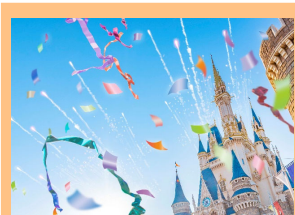


暑さ対策ガイド
(WebサイトやSNS上で掲示)

成長投資・コンテンツの一例



東京ディズニーシー25周年イベント



東京ディズニーリゾート45周年

連続的な成長投資の手を緩めず、掲げている目標を達成する

2026

2027

2028

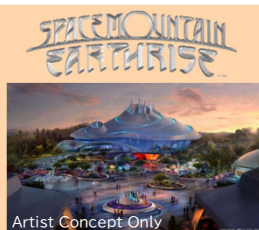
2029



「シュガー・ラッシュ: スウィートレスキュー」



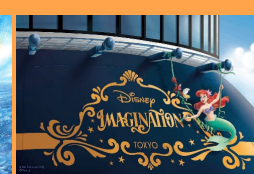
「ブリング・ザ・リズム!」
※新ステージショー



Artist Concept Only
「スペース・マウンテン・アースライズ」
と「トゥモローランド・プラザ」



「ディズニー・イマジネーション」のイメージ
(2028年度後半(2029年春)に就航を開始し、2029年度には通年稼働)



船尾に飾られるスターンキャラクター



「ディズニー・イマジネーション」のイメージ



船尾に飾られるスターンキャラクター

提供サービス(予定)

- ・1,300席を超える劇場で繰り広げられる、オリジナルの演目をはじめとする圧巻のステージショー
- ・屋外デッキステージで行われるキャラクターショー、船内各所で実施されるプログラム
- ・ディズニークルーズならではの衣装に身を包んだディズニーキャラクターとのグリーティング
- ・日替わりで楽しめる、それぞれ異なるテーマとメニューを備えた3つのメインのダイニングレストランや、カフェやバーなど約30もの多様な飲食施設
- ・「ディズニー・イマジネーション」限定商品などを取り扱うショップ など

就航予定年	2028年度後半 (2029年春)	投資額	船体 2,900億円 / 予備費 400億円 ※為替は165円/ユーロ、155円/ドル想定
船籍	日本(予定)	客船	2022年に就航した客船(ディズニー・ウィッシュ)をベースに一部を日本向けにアレンジ
総トン数	約14万トン	客室数	約1,250室
乗客定員	約4,000人	乗組員	約1,500人

クルーズ事業に参入する意義

OLCグループの
新たな収益の柱の獲得収益性の高い
ビジネスモデル土地の制約を
受けない拡張性舞浜一極集中
リスクの回避天候に左右されにくい
事業モデル国外からの
人材雇用

現時点での就航プラン(予定)

発着港	東京国際クルーズターミナル		
航海日数	2～4泊程度		
単価	10～30万円台*(1航海当たり1名)の幅広い価格帯		
ターゲット	ファミリー、若者層、訪日外国人旅行者		

業績への貢献

- ・就航数年後には、年間売上高は約1,000億円、年間乗客数約40万人を目指す
- ・通年稼働する2029年度から黒字を想定
- ・売上高のアップサイドを精査しており、営業利益率は、就航数年後には20%台後半を目指す
- ・減価償却費は年間で200億円レベルを想定
- ・利益率は、船体の償却期間終了後に一段向上する見込み
- ・為替リスク抑制のため、半分程度の金額については為替予約を実施

1隻目を着実に成功させた上で、2隻目の就航も検討

指定された時間に短い待ち時間で施設をご利用いただける無料のサービス
 (「東京ディズニーリゾート40周年記念プライオリティパス」は、2026年8月31日で終了)

東京ディズニーランド アトラクション		東京ディズニーシー アトラクション	
スター・ツアーズ:ザ・アドベンチャーズ・コンティニュー	終了	インディ・ジョーンズ・アドベンチャー:クリスタルスカルの魔宮	終了
ビッグサンダー・マウンテン	終了	海底2万マイル	終了
プーさんのハニーハント	終了	タートルトーク	終了
ホーンテッドマンション	終了	ニモ&フレンズ・シーライダー	終了
モンスターズ・インク“ライド&ゴーシーク!”	終了	マジックランプシアター	終了
		レイジングスピリッツ	終了

投資額・償却費 上半期実績(前年同期比較)

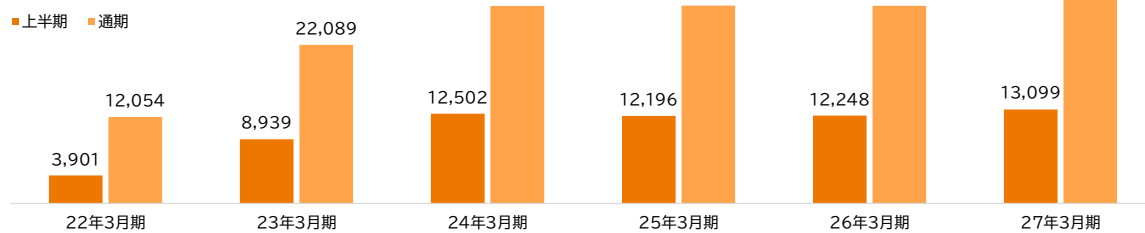
投資額 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2026/3 実績	2027/3 実績	増減	主な増減要因	(億円)
テーマパーク事業	284	299	15		
東京ディズニーランド	162	187	25	バックステージ環境改善、シュガー・ラッシュ:スウィートレスキュー、更新改良の増 スペース・マウンテン・アースライズの減	
東京ディズニーシー	49	64	14	ブリンク・ザ・リズム!の増	
その他	71	46	△ 24	更新改良の減	
ホテル事業	8	6	△ 2		
その他の事業	30	271	241	クルーズ事業の増	
(消去又は全社)	△ 0	△ 1	△ 1		
合計	322	576	253		
償却費 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2026/3 実績	2027/3 実績	増減	主な増減要因	
テーマパーク事業	276	270	△ 6		
東京ディズニーランド	75	67	△ 8		
東京ディズニーシー	155	157	1		
その他	45	45	△ 0		
ホテル事業	38	39	0		
その他の事業	14	16	2		
(消去又は全社)	△ 0	△ 0	△ 0		
合計	329	325	△ 4		

投資額・償却費 通期修正予想(前年同期比較)

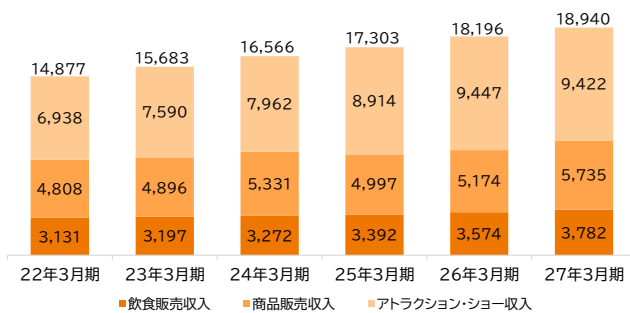
投資額 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2026/3 実績	2027/3 修正予想	増減	主な増減要因	(億円)
テーマパーク事業	750	1,113	362		
東京ディズニーランド	447	498	50	更新改良の増	
東京ディズニーシー	175	410	234	メインエントランス改修、プリング・ザ・リズム! の増	
その他	127	204	77	バックステージ環境改善、システム投資の増	
ホテル事業	27	149	121	京都ブライトンホテルのリニューアルの増	
その他の事業	84	962	877	クルーズ事業の増	
(消去又は全社)	△ 0	△ 1	△ 1		
合計	862	2,223	1,360		
償却費 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2026/3 実績	2027/3 修正予想	増減	主な増減要因	
テーマパーク事業	557	547	△ 10		
東京ディズニーランド	153	136	△ 17	東京ディズニーランド大規模開発の減	
東京ディズニーシー	312	317	5		
その他	91	92	1		
ホテル事業	78	78	0		
その他の事業	30	34	3		
(消去又は全社)	△ 0	△ 0	0		
合計	665	660	△ 5		

投資額 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2027/3 期初予想	2027/3 修正予想	増減	主な増減要因	(億円)
テーマパーク事業	1,160	1,113	△ 46		
東京ディズニーランド	509	498	△ 11	シュガー・ラッシュ:スウィートレスキューの減	
東京ディズニーシー	419	410	△ 9		
その他	231	204	△ 26	バックステージ環境改善、システム投資の減	
ホテル事業	155	149	△ 5		
その他の事業	1,002	962	△ 40	クルーズ事業の減	
(消去又は全社)	△ 2	△ 1	1		
合計	2,314	2,223	△ 91		
償却費 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2027/3 期初予想	2027/3 修正予想	増減	主な増減要因	
テーマパーク事業	555	547	△ 8		
東京ディズニーランド	135	136	0		
東京ディズニーシー	322	317	△ 4		
その他	98	92	△ 5		
ホテル事業	78	78	0		
その他の事業	34	34	△ 0		
(消去又は全社)	-	△ 0	△ 0		
合計	669	660	△ 9		

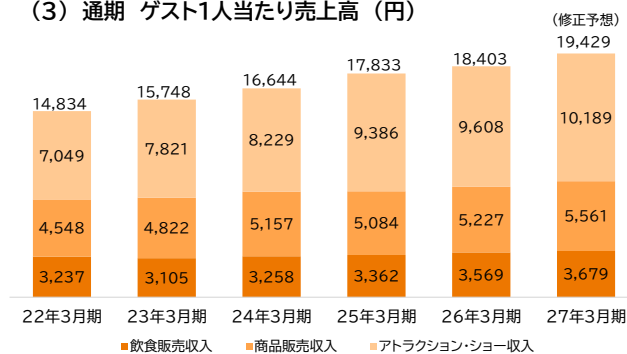
(1) 入園者数 (千人)



(2) 上半期 ゲスト1人当たり売上高 (円)

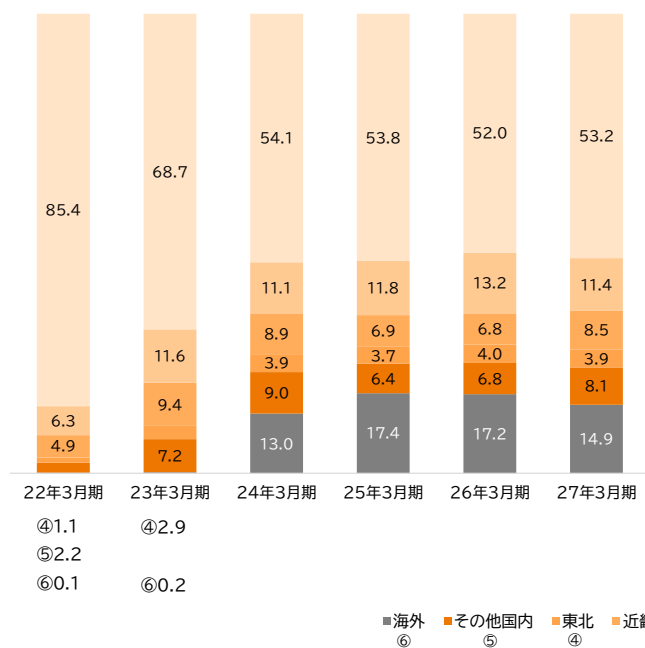


(3) 通期 ゲスト1人当たり売上高 (円)

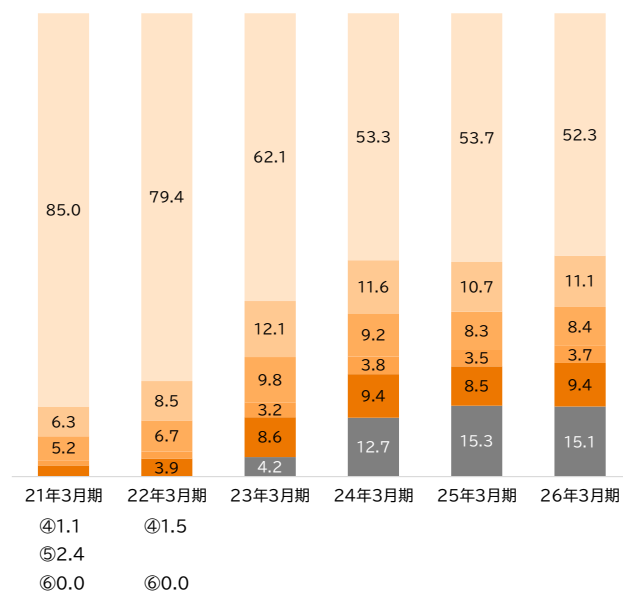


※2022年3月期以前の実績はチケット収入、2023年3月期以降の実績はアトラクション・ショー収入です。

(4) 上半期 地域別来園者比率



(5) 通期 地域別来園者比率 (～2026年3月期)



*' 23/9より集計方法を変更しました。

(億円)

連結貸借対照表

	前期末	当中間期末	増減
A.資産の部			
流動資産	6,752	6,590	△ 161
固定資産	9,538	9,777	238
資産合計	16,290	16,368	77
B.負債の部			
流動負債	2,063	1,948	△ 114
固定負債	3,226	2,930	△ 296
負債合計	5,290	4,879	△ 411
C.純資産の部			
株主資本	10,626	11,126	499
その他の包括利益累計額	373	362	△ 10
純資産合計	11,000	11,489	489
負債純資産合計	16,290	16,368	77

【A. 資産の部 77億円の増(0.5%増)】

I. 流動資産 161億円の減

(1)有価証券の減	△159 億円
(2)現金及び預金の減	△73 億円
(3)棚卸資産の増	37 億円

II. 固定資産 238億円の増

(1)設備投資による増	576 億円
(2)減価償却による減	△325 億円

【B. 負債の部 411億円の減(7.8%減)】

I. 流動負債 114億円の減

(1)1年内償還予定の社債の増	100 億円
(2)未払法人税等の減	△67 億円
(3)支払手形及び買掛金の減	△62 億円
(4)その他(主に未払金)の減	△83 億円

II. 固定負債 296億円の減

(1)社債の減	△300 億円
---------	---------

【C. 純資産の部 489億円の増(4.4%増)】

I. 株主資本 499億円の増

(1)利益剰余金の増	487 億円
・親会社株主に帰属する中間純利益による増	618 億円
・配当による減	△131 億円

II. その他の包括利益累計額 10億円の減

(1)繰延ヘッジ損益の減	△40 億円
(2)その他有価証券評価差額金の増	33 億円



株式会社オリエンタルランド コーポレートコミュニケーション部IRグループ
www.olc.co.jp

注意事項:

本資料は、OLCグループの業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料にて開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。当社グループの事業は、顧客嗜好・社会情勢・経済情勢等の影響を受けやすい特性を持っているため、本資料で述べられている予測や見通しには、不確実性が含まれていることをご承知おください。

テーマパーク入園者数、ゲスト1人当たり売上高については単位未満を四捨五入、財務データについては単位未満を切り捨てて記載しています。
本資料の転載はご遠慮ください。